

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200568		
法人名	株式会社アートジャパンナガヤ設計		
事業所名	グループホームうらら関		
所在地	関市倉知1726		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200568&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2004年にオープンした、うららで最初のグループホームです。自然豊かな地にあり、大きな窓から四季の移り変わりを眺めることができます。毎日散歩や買い物に出かけ、外へ出ることを心がけています。入居者様の笑い声・スタッフの明るい笑顔を大切に温かなホームを目指しています。3年以上勤務している職員が多く、家庭と仕事を両立し、活き活きと働いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入ったホームは、商店や畑に囲まれた環境にある。家族の訪問も多く、受診や外出にも協力的である。民生委員により、小・中学校との交流も可能となり、ホームで福祉体験も行っている。住民から介護や認知症の相談電話があったり、地域への還元にも前向きに取り組んでいる。1階と2階に夜勤者が1名ずつ配置され、夜間の体調変化時や緊急時にも万全を期し、本人と家族のみならず、働く職員の安心にも繋がっている。基本的には医療行為が必要となった場合には、他施設へ移る方針だが、家族の協力が全面的に得られ、本人の状態によっては、その都度かかりつけ医と相談の上、対応することとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に、利用者の権利を守り自己決定の尊重、生き生きと生きがいをもって生活できるよう自立支援の原則、明るく生活できる良好な環境スペース等挙げている。職員採用時に理念の理解を得たり、毎月の職員会議で確認し共有を図っている。	書の得意な利用者が書いた理念の言葉を玄関に掲示し、職員会議は勿論のこと、日々のケアの中でも互いに確認し合い、一つひとつの支援にも、理念に根ざした意識が表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の牛乳屋・美容院を利用し、おはぎや朴葉寿司作りの時はお裾分けをしております。日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の方と挨拶を交わしている。地域の小学校の運動会は、事前に大きなプログラムを持って招待され、テント席にて観覧した。中学校の職場体験も受け入れを行っている。	自治会に加入し、地域の理解もあり、利用者が参加できる行事には行けるよう支援している。住民が連れだって遊びに来たり、民生委員により、中学生との福祉交流を行ったり、小学校の運動会や文化祭に足を運ぶなど、地域とは日常的に自然な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成22年第3回の運営推進会議にて、「地域に根ざしたグループホームである為に」と施設内にとどまる事無く、地域に出向いたり、気軽に来訪していただいたり、地域に根付いた活動を行っていくことを打診し、出席者の民生委員さんに各所への啓発を依頼した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成22年より奇数月に開催し、日にちを休日と平日の交互にし多くの方の出席を得ている。行政、民生委員、家族等が出席し、活動状況報告、家族からの相談・要望等を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。	2ヶ月に1回の会議は、行政・民生委員・利用者家族などが参加しやすいよう、休日と平日の交互に開催している。、ホームからの報告だけでなく、家族も気軽に意見を出し合い、内容によって、職員間で共有してケアに活かすなど、サービスの向上へと繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は、土日曜日でも必ず出席をして頂き協力を得ている。会議の中で市からの情報提供の項目を設け、熱中症や感染症等の最新情報を得ている。また、業務等に関しても相談をしている。	市の担当職員は、休日でも、常に運営推進会議に参加しており、空室情報や書類上の相談事などを通し、協力的に対応してもらえる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりませんが、玄関の施錠は交通量が多い道路が有る為、安全上を行っています。ユニットの出入り口にはセンサーがあり、外出しそうな様子の時は、声をかけたり一緒について行ったり、時には車で出かけたりしています。	管理者・職員は、研修や日々の支援の中で、身体拘束の意味を理解しており、車椅子は移動の手段のみに使用している。1階と2階はエレベーターで行き来できるよう、閉塞感がなく自由を満喫できるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は行っておりません。暴言や言葉づかいに関しては、日頃から職員で話し合い気をつけています。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、利用希望の方は見えません。職員が研修に参加し、こんご、必要と考えられる方が見えたら、関係機関への橋渡し等支援を行っていきたく考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書、重要事項説明書を読み合わせ、時間をとって丁寧に説明をしております。また、事業所のケアに関する考えた方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議欠席者には、「皆様の声をお待ちしております」の用紙にてご意見を頂くよう工夫をしている。また、面会時に職員が意見や不満・要望等を表せる機会を設け、出された意見、要望は職員会議で話し合い、反映をさせている。	家族の意見や要望は、面会時やホーム便り・個別状況報告書を手渡す時に、管理者や顔馴染みの職員から聞き出している。意見等はミーティングなどで話し合い、ケアに活かす取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議やホーム長が個々にヒヤリングを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問い掛けたり、聞き出したりするよう努めている。	日常的な食事や入浴・排泄などの業務の中で職員が気づいた意見は、ユニットごとの会議で話し合わせ、ユニットリーダーを通じて管理者に届き、リーダー会議で検討し合い、管理者は職員の声を前向きに受け止め、利用者への支援に反映をさせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社担当役員は、管理者や個々の職員からの状況の変化を知り、職員の努力や成果の把握に努め、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社した職員は、1ヶ月研修期間としてマンツーマンでケアの技術面だけでなく、利用者の関り等丁寧な指導を行っている。また、外部の研修には多くの職員が参加できるようにし、研修報告は職員会で発表と閲覧も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会加入や、地区の連絡会参加を通じて、情報交換やより良いサービスを目指し取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅・病院・サービス事業所等に出向き、事前面接で生活状態を把握するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でご家族に今までのサービス利用状況や求めているものをお聞きし、事業所としてどのような対応ができるか、話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、可能な限り柔軟な対応を行っております。場合によっては他事業所のサービスを勧める事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動を通じ、家事等を一緒に行ったり、本人の趣味を生かし、ピアノや大正琴演奏をしたり、習字を一緒に書いたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の状態をこまめに報告、相談し、情報を共有し、本人を支えていくための協力関係を気づいています。また、手紙をご自身で書いて頂き、関係が途切れないよう留意しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に利用者の知人や親戚に遭いに連れて行って頂いたり、電話や手紙での連絡を取り持ったりしている。職員が運転し、利用者の住んでいた地域をドライブしたり、買い物に行った店で利用者の知人に遭う事が続いている。	教え子が差し入れを持って訪れたり、古くからの知人が遊びに来たりと、馴染みの人々がホームに気軽に足を運べるような雰囲気作りを心がけている。また、外出の際に、利用者宅の近くに行き、懐かしさを味わって、昔の話に花が咲くひと時もあり、行き来ができるような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に席で多く会話を持つようにしています。皆さんが楽しく過ごす事が出来るよう、職員が調整役隣り、利用者同士の関係が円滑になるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、アセスメントやケアプラン等を手渡し、生活環境、支援の内容、注意が必要な点等の情報交換を行います。施設訪問時や電話連絡時に様子を伺ったり、面接をさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の特技を生かした活動を支援し、日常生活を楽しく過ごせるよう支援をしています。利用者からの聴き取ったことや気づきをケース記録の特記事項に記載をし、共有すると共に、ケアプランにも取り入れています。意思疎通が困難な方はご家族から情報を得るようにしています。	利用者からの聴き取りや家族からの情報で、利用者の得意な事や好きな事を把握し、その内容を記録に残し、職員間で共有している。利用者の思いや意向は、日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接から、ご家族や本人から今までの生活やサービス利用にいたる経緯のお話を伺っています。また、プライバシーには配慮をするよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活はケース記録に記載をし、少しでも関わってきたことはケース記録や申し送り帳に記載をし、申し送り時に伝えます。また、できることに注目し、その人の全体の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日常のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。医師の意見は往診や受診の際に聞き、介護計画の作成に反映をしている。介護計画の見直しは、モニタリングに基き3ヶ月に1回行うが、変化を生じた場合は、柔軟に対応をしている。	本人の思いや意向と家族の要望を十分反映させ、ユニットリーダーや管理者・医師の意見も取り入れた介護計画が作成されている。3ヶ月に1回の見直し作業や急変時・認知症状が進行したときなどには、柔軟に見直しを行い、家族の承認を得ている。	利用者の居室内の整理を一緒に行う担当職員の気づきや発見なども、介護計画作成に活かされたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態の変化は、個々のケース記録や申し送り帳に記載をし、朝の申し送りで伝え、職員間の情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人と家族の状況に応じて、通院や往診が必要な時は柔軟に対応しています。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に市の介護相談員の受け入れ、有償の音楽療法・介護予防体操・絵手紙を行い、利用者の生き生きとした暮らしにつなげていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、本人の希望により従来の医師に受診して頂いております。通院は家族の付き添いを基本としていますが、独居や家族が遠方等で家族での対応が困難な時は有償で職員が通院介助を行っています。	受診には家族の同行が基本であるが、遠方の家族に代わっては、ホームの職員が有償で受診に同行することとなっている。管理者が常に医療情報を把握しており、利用者の状態によっては、訪問看護が入ったり、協力医による月に1回の往診を基本としているが、必要な頻度の往診も受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行うようになっています。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。家族とも回復情報等情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、ホームの出来る事、出来ない事を説明し、利用者、家族と確認をしています。体調の変化に応じ、かかりつけ医と家族と相談し方針を決め職員にも情報提供している。看取り指針を整備し、今後、順次説明をさせて頂く予定である。	入居時に家族の意向を聞いているが、基本としては医療行為が必要となった場合には、他施設や病院等へ移ることを説明し、家族の同意を得ている。	重度化や終末期を向かえた時、他施設や病院等に移ることは、家族も納得のうえでの入居であるが、その時期の見極め等、看取り指針で明確し、家族とホームの思いにズレがないようにされたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制のマニュアルは作成しています。それに基き年1回の訓練を実施しています。各ケースファイルに救急車対応時の利用者の情報は備えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルは作成しています。年1回利用者と共に消防署立会いの元、避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行っています。また、利用者ごとに非常用持ち出し袋を用意し、食料・備品を準備しています。	年に2回、消防署との訓練と日中のミニ訓練を行い、外への避難方法や消火器の使用法などの訓練を実施している。利用者毎に飲料水や防空ずきん・タオル・おむつなどが入ったリュックサックが用意されている。	さらには、災害時の職員の初動体制や参集法、居室の家具の固定などについても話し合われたい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いは、利用者には入居時、職員には雇用契約時に説明し、誓約書に記載しております。また、援助が必要な時も、ご本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めています。	その人その人の過去の職歴を重んじながら、声かけや残存能力を引き出すなど配慮している。外出時に着る服などは自分で決めてもらったり、食事のエプロン等も安易に使用しないよう気をつけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物等、また日常生活の活動において、押し付ける事はせず、利用者の意思を尊重し生活出来るよう配慮しています。意思疎通が困難な方は、表情や反応を通して、自己決定できるよう努めています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れで生活をして見えますが、個々の体調に配慮しながら、その時々気持ちを尊重して、その人なりの生活を送って貰っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に自分で決められますが、迷われる時は本人にお聞きし支援しています。理美容院の髪型も店の人と相談しながらカットさせて頂いております。行事には化粧、マニキュアをしてお洒落を楽しんで貰える様取り組んでいます。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士がカロリー計算をして立案しています。調理、盛り付け、配下膳も利用者と一緒に行い、職員も一緒にテーブルで頂き、楽しく食事が出来るよう配慮しています。誕生日にはお好きなメニューを、行事には、出前や外食等で食事を楽しんでいます。	ユニット別に、食材の買い出しに出かけ、その日その日に食べたい物や好みに応じて、職員が3食作り、全員で「いただきます」と手を合わせ、見守りしながら同じ食事を食べている。盛り付けやテーブル拭きは、利用者が行い、男性利用者も下膳するなど、自然にホームの暮らしに参加している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食あたり大よそ1,600キロカロリーで、旬の食材を使用し栄養バランスに配慮しています。一人ひとりの体調と1日の摂取量(食事・おやつ)と水分摂取量を把握しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にし、自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては職員が行っています。夜間は技師洗浄剤で消毒をしています。	

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意の無い利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄するよう支援しています。	その人その人に合わせたこまめなトイレ誘導で、排泄の自立が維持できており、約3割の利用者は布パンツとなっている。入居時は歩行困難だった人が、職員の努力によって、自力歩行でトイレに行けるようになるなど、きめ細かい支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表で排便の状態を把握し、食事バランス、乳製品の提供、体を動かす事で自然に排便が出来るよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに15時過ぎから入浴しています。毎日入浴は行う為、急な入浴支援にも対応はできます。1対1でゆったり入浴して頂いています。浴槽をまたぐ事が困難になってきたら、シャワー浴や介助者を2名にしたり、安全な入浴支援を行っています。	週に3~4回の入浴は、きれいな湯に入って喜んで欲しいという管理者の考えから、常に湯を出したままにしている。利用者の清潔と健康を保てるよう、必要時や希望によっては、回数を増やしたり、日にちを変更するなど、配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めています。今までの寝具、あんか等を使用して頂いています。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないか確認を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は2度チェックをし確実に服薬されるのを確認しています。処方箋を整理し服薬の内容を確認できるようにしています。薬が変更になった場合は、効能、副作用を把握し、特に状態変化の観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握して、お手伝い等をお願いしたり、役割を持っていただくことが出来るよう支援しています。外出や外食、季節の行事等への参加もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に配慮し、朝の30分程前の道路を散歩に行きます。殆どの方がシルバーカーを押して歩きますが、車椅子も適宜使用します。1日おきの買い物にも職員と一緒に同行されます。季節の花見やドライブ等外出・外食も行っています。	買い物や食材の買い出しはほぼ毎日行われ、利用者の希望や体調により、一緒に同行してもらって品物を選んでもらうことも行っている。周辺の散歩を行い、住民と挨拶を交わしたり、桜・コスモス・紅葉・ひまわりなど、四季を感じられ気晴らしにもなるような花見の外出もしている。	

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームの金庫で管理をしています。買い物時は支払いをお願いしたり、必要品は選んで買って頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けてもらっています。家族や知人の方からかかってくることもあります。コードレス電話なので居室等で話して頂き、会話が他の方に聞こえない様になっています。手紙は月1回書いて頂き、利用表と一緒に郵送しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある絵手紙や貼り絵、書道など利用者の作品が展示をしたり、散歩で花をとって飾っています。畳やソファは過ごしやすい共有空間となっています。快適な温湿度になるよう日の光を入れたり、エアコンで室温調整をし、冬場には加湿器を使用しています。居室には24時間対応の空気清浄機を設置しています。	東から光が差し込む明るいリビングでは、利用者が手芸や塗り絵を楽しみ、職員の見守りの元、歩行訓練にも役立つ長い廊下を行ったり来たりと運動している。国道から少し入った場所にあるためか、騒音もなく、窓からは山の緑も眺められ、自然を身近に感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関無いの入り口にベンチがあり、外を眺めて話をして見えます。畳の間や居間のソファ等、思い思いの所で過ごせるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよさを配慮している。絨毯や布団等利用者の身体状況や好みに合わせた部屋づくりをし、楽器の持ち込みもあります。	利用者の希望や体調により、少しでも機能が低下しないよう、ベッドと布団を選択してもらっている。居室には、タンスや使い慣れた家具が持ち込まれ、自分で書いた書や手作りの作品が飾られ、入居前の本人の生活が感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各フロアはバリアフリーで各所に手すりがついており、転倒に気をつけています。各居室にはそれぞれ違ったネームプレートが掛けてあり、風呂場・トイレの表示もしてあります。		